

海員協會の第二十八回總會は幹部派と反幹部派の暗闘を暴露し光輝ある四十年の歴史に一大汚点を印した。

誰が？何がソーシタか？私は此禍因は遠く昭和三年の昔に植えつけられたと考える、即ち全年一月の役員改選を前にして一部の會員が、協會の實權を自派に收めんと頗る露骨な運動を始め其首謀者は除名處分を受けた。コレは前理事で（私は今回の選挙を無効と信じ當選者全部を正當なる役員と認めない）顧問辯護士都竹氏が主事として勤続十一ヶ年を以て退職した時壹萬圓に近い退職手當を得たのを見て、乃公取つて代るべしとする面白からぬ經過を辿つたものであつた、其當事の都竹氏は會勢發展に心魂を盡したもので會員一同深く之を多として居つたが退職金壹萬圓と聞いて少なからず驚かされたものであつた、ソレは海上大衆の誰れもが知らぬ内に制定された日本郵船會社の規定以上の退職手當制によつて支給されたもので所謂合法的のものではあつたが、一厘半文の退職手當に浴し得ない社外船乗組の會員は（今でもソーシタが其當時の會員の七八割迄は社外船乗組員であつた）ヨリ／＼不満の聲を擧げ中には御手盛制で壹萬圓をセシメたと罵る者さえあつた。